

鐘ヶ江博士の退職を記念して

水 谷 研 治

鐘ヶ江さんとは同期の桜として東海銀行へ入行した。調査部に配属になったのも同じ頃である。鐘ヶ江さんは若くして銀行から選ばれロンドンのロイズ銀行へ研修生として派遣された。その後、責任者として大部な「ロイズ銀行——イギリス銀行業の発展——」（東洋経済新報社）を翻訳された時、小生も翻訳担当者の一人に加えていただいたことがある。その時、鐘ヶ江さんの英語力が抜群であったことに驚かされただけでなく、真剣な態度で細かいことまで目を配られ、大変教えられた。

定年前に中京大学へ招かれた鐘ヶ江さんに遅れること10年余にして、小生も中京大学経済学部にお世話になることになった。不案内な小生の門出に際し、鐘ヶ江さんは例によって昔と同じように親身になって、いろいろとお教えてくださった。どれほど感謝してもし切れない。

豊かな銀行実務体験のうえに、真摯な学究の歳月を重ねられ、鐘ヶ江博士は「日本銀行」の研究家として有名を馳せられた。明るいい人柄で学会でも信任され、日本金融学会の常任理事として活躍されている。また教育者としての鐘ヶ江先生は多くの学生、卒業生に慕われておられる。

退職されるに当たり、長い間の御礼を申し上げるとともに、遠く及ばないものの、鐘ヶ江博士に少しでも近づきたいとの思いを強くしている。

(2004年1月6日)